

ふ・れ・あ・い

令和2年 4月 1日発行 vol.73



札幌南徳洲会病院の理念

- ◎ 生命を安心して預けられる病院
- ◎ 健康と生活を守る病院
- ◎ ホスピスのことを大切に作る病院
～「ホスピスのところは、弱さに仕えるところである」～

◆◆◆CONTENTS◆◆◆

- P1 総長コラム
- P2 院長コラム、看護部長エッセー
医師紹介
- P3 新築移転
- P4 お知らせ、診療予定

Message 総長コラム「どーも、宏です」

「マスクのお話し」



新型コロナウイルス感染症の終息がなかなか見えない中、皆さんいかがお過ごしでしょうか。今回はやはり「新型コロナウイルス」の話題にすることにしました。今、皆さんにとってかなり身近な存在であり、欲しくてもなかなか手に入りづらい「マスク」のお話しです。

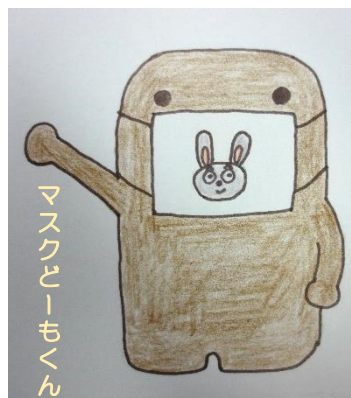
私の小さい頃はマスクをするのは風邪を引いた時でした。当時は白いガーゼでできていて私は母手作りのガーゼマスクをしていたこともあったと記憶しています。私が医師になったのは今から約35年くらい前でしたが、その頃はまだ今のようないすぽーザブルのサージカルマスク(不織布製マスク)はなかったと思います。私は外科医でしたので、手術の時には煮沸消毒済みの青や緑色の布製マスクをしていたと思います。サージカルマスクが使われ出したのはこの25年くらいの事ではないかと思っています。

現在、街を歩いているほとんどの方がこのサージカルマスクをしているようです。「サージカル(surgical)」とは「外科の、手術の」という意味でサージカルマスクは本来、外科医や医療者が着用するマスクを指します。サージカルマスクの目的は手術で医師の呼気に含まれる細菌などによる汚染から患者を守ると、患者の体液(呼吸器からの飛沫など)や血液の飛散から術者を守ると

札幌南徳洲会病院 総長 前野 宏

いう2つの意味があります。この不織布製マスクは細菌(粒子径 4.0-5.0 μm)や花粉は通しませんが、コロナウイルスなどのウイルス(粒子径が 0.1 μm)を防ぐ力はありません。ですので、WHOも「咳やくしゃみ等の症状がない人は予防目的で公共の場でマスクの着用は必要ない」と言っています。私は、「エチケット」の為のマスクであれば、ガーゼマスクでも十分だと思います。一般市民の皆様は是非、適切なマスクの使用を心がけて頂き、絶対に必要な医療や介護現場で働く人々にサージカルマスクが行き渡らないような状況は早期に解消されるべきだと思います。

もうひとつ、マスクは「仮面」という意味もあります。顔を見られたくない芸人や悪いことをした政治家は必ずと言って良いほどマスクをしています。ちなみに、お化粧をし忘れた女性はす



っぴんを隠すためにマスクをすることがあるんだそうですね。マスクには「守られている」という心理的な効用もあるのでしょうか。意外とマスクも奥が深いようです。